松富かおりの〈世界と日本の安全保障〉㉖

歴史の皮肉 ～ドイツを守るイスラエル製の防空網～

ジャーナリスト・元駐イスラエル大使夫人　松富かおり

4年連続過去最高となったイスラエルの兵器輸出

オーストラリアのボンダイビーチで2人の男が銃を乱射し、少なくとも15人が死亡、42人が病院に運ばれた。警察は「ハヌカを祝うユダヤ人を標的にしたテロ」と断定。「ハヌカ」とは、ユダヤ暦の新年8日間続く祝日。「光の祭り」とも呼ばれ、ギリシア人に奪われ汚されたエルサレム神殿をようやく取り戻したユダヤ人達が、たった1壺残ったオリーブ油が代わりの油が届くまで、8日間も燃え続けた『奇跡』を祝うもので、1年で最も大切な祝日の一つ。

その、日本なら「お正月」とも言えるハヌカの日にユダヤ人を襲うという凶行。犯人は親子で、彼らの運転した車から過激派組織「イスラム国（IS）」の旗や、爆発物が見つかり、当局は「襲撃はユダヤ人コミュニティーを狙ったテロ」と断定。イスラエルのネタニヤフ首相は、豪州政府による『パレスチナ国家承認』が反ユダヤ主義を煽り、憎悪が癌のように豪州に広がっている」と語ったが、豪州政府を責めるのは如何なものか?イスラエル軍によるガザ侵攻が激しさを増すにつれ、多くの国で反イスラエル、反ユダヤ感情が高まっている。

そのイスラエルは12月17日、ドイツに提供した防空システム「アロー3」の能力の拡張を約31億ドル（約4800億円）で受注した。システム導入時の費用約35億ドルと合わせ、イスラエル史上最大の防衛輸出になるという。イスラエルの「アロー3」は高度百キロメートル以上で、弾道ミサイルを迎撃できるシステムで、米国とイスラエルが共同で開発。ドイツは2025年12月に運用を始めたばかり。今後、イスラエルは迎撃ミサイルや迎撃ミサイル発射装置の供給を増やす。イスラエルの強みは、実戦で有効性が証明されている事だ。「アロー3」は、フーシ派との紛争でも、イランとの戦争でも、高い防御率を実証した。イランが発射したミサイルの86％を迎撃したとされる。イスラエルの方針では、人のいない砂漠に落ちると計算された場合、迎撃せず、そのまま砂漠に落ちていただく。（ミサイルの費用の方が高いため）そのため、この防御率は真剣に全てを撃墜しようと仮定すると更に跳ね上がるだろう。この為イスラエルの防衛装備品の需要は大きい。2024年の輸出額は147億ドル（約2兆3000億円）で、4年連続過去最高となった。過去5年で倍以上になったが、このうち54％が欧州向けで、2023年の35％から大きく増加している。

なぜか?

それは、ロシアが欧州諸国に対し、実に様々な破壊工作を仕掛けており、多くの欧州の政治家、軍事専門家が、「ロシアは欧州に対し『ハイブリッド戦』を仕掛けてくるつもりではと考え、プーチンがどこまで突き進むか判らないと考え始めているからだ。サイバー攻撃、テロ、ドローン攻撃などを組み合わせ、攻撃を繰り返す事で、「社会

の不安」を煽り、「分断」を呼び込もうとしている、と分析する。

２０２４年にはＤＨＬの小包が英国、ポーランド、ドイツ国内で爆発した。小包は幸運にも貨物飛行機が離陸する前に爆発したが、犯人らは残り６kgもの爆発物を持っており、次の段階で彼らが起こしうる被害は、米国の貿易センタービルの悲劇にも匹敵しうると判断された。情報専門家は彼らのバックにロシアがいることを突き止めた。

対ロシア最前線に立つポーランドは「ロシアが、欧州の市民たちに与えうる被害は、この20年で過激派のイスラム信者らが欧州に与えたと同じ位大きな脅威となっている事はもはや単なる事実に過ぎない」と危機感を露わにし、某国の情報局長は「部下がロシアのエージェントが道路や橋、鉄道を調べている様子を掴んでいる。彼らは大陸中の『脆弱なポイント』の地図を調べ上げている」と言う。ＮＡＴＯの文書には「ロシアは２０２９年までに欧州に対して、軍事的、経済的両面の『熱い戦争』を仕掛ける準備をしているのでは」とまで記されている。

諸行無常、盛者必衰の理

そんな状況だからこそドイツは対ロシアに備え、イスラエルから「アロー３」を購入し、更なる支援も「買った」のだ。なんという『歴史の皮肉』だろう。今や1国で欧州を席巻した強国ドイツはなく、民族浄化され、欧州にはひとりもいなくなるはずだったユダヤ人達が苦難の末築いたイスラエルがドイツの空を守る。安全保障、兵器の質において、イスラエルははるかにドイツを追い越したのだ。片方は、歴史上最も被害者の多い戦争を引き起こした贖罪の為、できるだけ戦力を持たない生き方を選び、もう片方は「民族が滅ぼされる」恐怖を実際に味わった結果、「独立した祖国」を死に物狂いで創り上げ、その後も「生き残りをかけて容赦のない道」を選んできた。イスラエルから、ポーランドはスパイク対戦車ミサイルを、フィンランドはイランの弾道ミサイルを迎撃した高層防空システム『ダビデスリング』を採用する。かつて自分達の存在を否定した国々が争うように自国の防衛装備を購入する。ユダヤ人は何を思っているだろう。

しかし、オーストラリアのビーチでのテロだけではなく、英国ではシナゴーグ付近にいた群衆に車が突っ込み、２人が死亡。豪州でも英国でも反ユダヤのヘイトクライム『憎しみの犯罪』が増えている。２０２４年ドイツで発生した反ユダヤ主義事件は８６２７件と前年比８割増えた。２０２５年1月にはシドニー近郊で爆発物を積んだバンが見つかり車体には「くたばれユダヤ野郎」と書かれていた。冬の風物詩クリスマス・マーケットは厳戒態勢の下行われる。社会の分断が、多様性を誇る国オーストラリアを蝕みつつある。欧州でも、反ユダヤ主義のヘイトクライムは増加の一途だ。

英国は、全国のシナゴーグに警察官を配備する。ガザの人道状況が悪化する中、欧州各国で親パレスチナデモが頻発し、時に暴徒化している。

『歴史の皮肉』はロシア側でも起こっている。かつて、ロシアは、東西冷戦において、中国の兄貴分だった。軍需産業においても経済全般においてもロシアがリードし、中国は追いつこうと必死の努力をしてきた。が、しかし、ここにおいて逆転が起こっている。ロシアは以前から過疎化の進むシベリアへの中国人の流入を危惧してきた。とにかく人数が多いので、森林や農地をリースし「実効支配」を事実化している。「大規模な森林伐採は生態系を破壊し、砂漠化につながる」との警鐘があっても、プーチンは習近平にＮＯという力をもはや持たない。資源だけではない。ひとりっ子政策を続けた中国は男性の数が女性より10％以上多く、結婚できない適齢期の男性は３５００万人に上る。そこで目をつけたのがロシア。ロシアの女性人口は男性より10％以上多い。その上ウクライナ戦争での死傷者は推定１０５万人（英国国防省）、更に数十万人の若い男性が徴兵を恐れてロシアを離れた。今、ロシア各地で中国人男性とロシア人女性の「見合いツアー」が行われているという。中露ビザなし交流は、ロシア人女性の大量出国という結果を招きかねない。ウクライナ戦争に必須の半導体等の供給を中国に頼るプーチンは、これらも見て見ぬふりをせざるを得ない。『歴史の皮肉』は、かつて兄貴分風を吹かせていたロシアに、中国への屈辱的対応をも強いている。『諸行無常、盛者必衰の理』は世界情勢においても真理である。